

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Plus+days鳳校			
○保護者評価実施期間	令和6年 3月 4日 ～ 令和6年 3月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和6年 3月 6日 ～ 令和6年 3月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 5月 16日			

○ 分析結果

※ 一部追加の設問については令和6年9月に追加でアンケートを実施しています。

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人に対して、人員的にも手厚い環境で支援を行い、個々のニーズや課題に合わせた支援を行っていること。	個別療育の時間と集団療育の時間を分けることで、個々に合わせた支援を行いながらも子ども同士と一緒に活動する時間も設けるようにしている。 個々の取り組み内容については、支援計画を中心にしながらも細かな支援方法や直近で取り組むべき課題については朝礼や共有ノートを使って共有するようにしている。	個々に対しての取り組みについて、職員みんなで一貫した支援ができるように工夫しているが、共有の程度が職員によってばらつきがあったり、伝え漏れやノートの確認漏れがあることもあるため、より確実に丁寧な共有の方法を考えていきたい。
2	子ども本人や保護者の意向を取り入れつつ、子ども一人一人に合わせた支援が行えていること。	いただいた意見や要望についてはすぐに支援に取り入れられるように職員で情報共有しながら取り組んでいる。 送迎でお会した際には保護者の方と細やかに情報共有し意向を聞くことができるようにしている。	お会いする機会の少ない保護者の方への申し伝えや意向のお伺いは日々細やかにはできづらいため、そういった家庭でも気軽に連絡のやり取りができるよう、契約者専用サイトのメッセージ機能の周知を図っていく。 全体へ関わる取り組み内容等については、SNSや会報を通じてより丁寧に細やかに情報発信をしていく。
3	部屋がいくつか仕切られていて、活動に合わせて空間を使い分けることができていること。	気持ちの切り替えや場面の理解が体感的、視覚的に理解できるように、活動ごとに部屋を使い分けるようにしている。 一部がパーテーションでの間仕切りになっているため、必要に応じて大きな空間にして見通しをよくして安全に配慮している。	死角ができてしまうことのないように、職員の立ち位置や配置の上での連携がうまく取れるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携が十分に取れていないこと。	平日は課題活動が中心の事業所のため、サービス利用時間に地域連携を行うためのまとまった時間を確保することができないため。	土曜日は長時間の利用時間を確保できるため、地域との交流がもてる活動を取り入れる工夫を行っていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 令和6年5月16日						回収数 12	
事業所名		利用児童数 令和6年3月31日							
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	0	0	0			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12	0	0	0	手厚く見てくれている。	子ども1人につき職員を1.5～2人で見れるように工夫している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	0	0	0	活動の内容によって部屋を分けているのでわかりやすい。	学習・運動と子どもがわかりやすいように部屋を固定するように工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	12	0	0	0			
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	0	0	0	以前は発語が少なく心配で通所しているが、最近では発語が増え自分から相手に伝えたい気持ちが強くなり自分から気持ちを伝える姿勢が多くなりほんの少しずつだが成長が感じられて嬉しく思っている。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	0	0	0	家族の意向に沿っているのと、本人にあった課題目標や内容を支援計画表で作成してもらい少しずつ子どもの変化が感じられる。		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	0	0	0			
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	0	0	1			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	0	0	0			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	2	0	0		担当職員をかえ、プログラムの内容が固定化されないよう工夫している。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	0	1	3		現在行っていないが、土曜日のイベントなどで交流する機会をつくれるようにしていきたいと思っている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	0	1	0			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	1	0	0			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	0	4		保護者会を行う中で、家庭での療育のサポートになるようにペアトレの要素を取り入れた内容を行っている。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	0	0	0			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	0	1	0			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0	家族の意向を理解し子どもに対して適切な対応をもらっているので安心してサポートをお願いできる。		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	1	0	2		昨年は年2回保護者会を開催した。また保護者会とは別に子どもの活動の様子がみれるように見学する機会を設けた。今後も年2回保護者会を開催したり見学会を実施したりしたいと思っている。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	0	0	1	とても丁寧に行っている。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	0	0	1		毎月会報を発行し、活動内容や次月の予定等を発信している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	0	0	2		緊急時、防犯・感染症の対応マニュアルは作成しているが、広く保護者の方にも周知・説明できる方法を考えたいと思う。 年2回地震・火災を想定した避難訓練を実施している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	0	2		実施内容について、会報に載せる等に工夫をしているが、さらに広く周知できるような工夫を考えていきたい。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0	本人のその日の気持ちや様子や態度を見ながらやり取りする中で見極めてくれ、運動面では安全に気を付けて取り組んでいると思う。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	0	1	以前活動中に額をぶつけたことが一度だけあったが、丁寧に説明と処置、対応と本人の様子の報連相をしてもらった。対応が早く、その後も何事もなく感謝している。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0	本人に通所日だよと伝え「行く？行きたいかな？行けるかな？」と聞くと明るく元気な声で「うん！」と返事してくれるので安心して送り出している。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	1	0	0	家に帰って来て、今日新しい学校で〇〇やったーってうれしそうに話してきました。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
Plus+days鳳校		令和6年5月 16日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	0	パーティションで部屋を区切り、個別対応を行っている。 利用児童が多い時は、時間で区切り活動の部屋を分散させている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	0	送迎時可能な限り添乗員を付けて運行している。 マンツーマンでつけるように基準よりも多く配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	0	見通しがわかりやすく示されている。 個別課題の際には室内に間仕切りを置き個の空間を保てるよう工夫している。 ロッカー・トイレ・スケジュール表等使い方や1日の流れを視覚的にわかりやすくするため張り出している。また、個別に合ったカード等も必要に応じて作成している。	外階段が雨の日滑りやすいため、防滑テープを貼る等対応を考える。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	0	トイレなどの水回りを清潔で使いやすいようにしている。 子ども達が触れる箇所は、退所後消毒を徹底している。子どもが口をつけた玩具等はその都度水洗いと消毒を行っている。月に1度は玩具全部消毒を行うよう心がけている。 プレイマットを敷き、防滑策を講じている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	0	一人になりたいときや集中したい時には静養室を使うようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12	0	複数の部屋があり、その時々に応じて使用できている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	0	わからないとの回答が多い質問に対しては取り組みの活動内容を伝えていくように意識している。 結果を職員に共有している。	職員間への共有を行うが、日常的な確認や年度途中入職の方への周知が十分でないため、周知の徹底を行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	朝礼、昼礼、終礼で情報共有を行っている。 参加できなかった職員も共通認識をもてるよう共有ノートに子どものようすや改善策を記入している。	意見を積極的にいう職員とそうでない職員がいるため、まんべんなく意見の吸い上げができるよう工夫をしていく。 朝礼等のみでは時間が足りないため、個々にももっと情報共有していく必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	2	外部評価はおこなっていないが、社内での評価制度を用いて評価を行っている。	年度途中の職員への周知が行き届いていないため、周知の徹底を行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	0	パートを含め職員全員が共通理解できるように実施されている。 定期的に研修を行い知識を高めている。 外部研修に参加した職員は、内容を職員へ共有している。 研修情報に関しての情報共有がある。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	5領域全てを支援できるようにプログラムを考えている。 毎月の通信やSNSで取り組みを配信している。 大まかな支援の内容や指針についてホームページで公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	0	施設長が職員と相談の上で課題を見つけ、支援計画の作成を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	職員間でも話し合える環境にある。 支援計画の作成Mtgをしたり専用の用紙を使いどの職員にも意見を聞けるようにしている。 完成した支援計画は児童の個別ファイルに挟みいつでも見れるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	0	一人一人に合った支援が行われている。 支援計画を確認し、職員間で児童のようすを確認しながら支援内容を決めている。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	2	職員間でノートを使って情報共有を行っている。	標準化されたマニュアルを策定していきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12	0	事業所内研修でもそれぞれの支援項目の重要性について話があり、意識の共有を図った。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	0	職員同士しっかりと話し合い、情報共有や案の出し合いができています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	0	毎回子どもたちが楽しめる計画を立てている。 過去のプログラムを確認したり、担当した職員に話を聞いたりして固定化しないようにしている。 担当職員が固定化しないようにしている。	固定化しない中でも統一された支援に対する考え方や支援の目的をもって各自が対応できるよう、工夫をしていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	机上課題は個別、運動課題は集団と場面を分けて課題設定を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	朝礼を行いその日のスケジュール等を確認している。 共有ノートを活用し、出勤時には各自が目を通すようにしている。	イベント前は間に合っていないことが多々あるため、職員への業務分担を工夫して対応していく。 個別の机上課題に関しては共有が十分でないため、共有方法を考えて対応していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	0	終礼を行い、内容を共有ノートの書き留めて全員が目を通せるようにしている。 終礼に参加できない職員は共有したいことを他の職員に事前に伝達するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	課題プリントにその日のようすやできていたこと等を記入していることで、次の活動の内容を考えやすくなっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	職員間で話し合いつつ、子どもの日頃の様子や課題等についてモニタリング内容に繁栄させている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	0	児発管が参加している。	児発管だけでなく、可能な限り職員も同行するようにする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0	機関相談や子相と必要に応じて連携、情報共有等を行い、本人支援・家族支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	送迎時に各校園との情報共有を行っている。 電話等を通して、子どもにとってよりよい環境や地域移行の可能性について保護者の意向を主軸に考えや情報の共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	2	当事業所で放デイに上がる児童に関しては、神学のタイミングで学校側や保護者の要望に合わせて情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	9	1	センター研修は受講できなかったが、支援に精通した他事業所や他機関に相談し助言をいただいている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	6		地域の児童との交流の機会はまだない。 交流できる機会をどのように生み出していかのか模索していきたい。

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	連絡帳や電話を通して情報共有している。 送迎時保護者とお会いした際に伝達している。 日頃からできるようになったことをなるべく伝え、マイナスになるようなことは少しでもプラスに思ってもらえるように伝えるようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	2	保護者会の中で支援に関する助言を行っている。 相談があった際や、子どものようすや保護者のようすから必要としていと感じられた時には、その都度保護者へ向けての助言、支援を行っている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約時に詳しく説明を行っている。 送迎時や対面で時間をとれなときは電話で詳しく伝えている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	適宜保護者へ相談している。 送迎時や保護者会等で保護者の意向を確認している。 完成した支援計画を保護者の方に一度見てもらい、納得した上でサインをもらっている。 取り入れてほしいことや修正等があればその旨を付け加え再度作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	ねらいや内容について丁寧な説明を心がけている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0	相談があった際には職員間で共有し必ず助言を行えるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12	0	参観、保護者会を行い、保護者の方同士の連携の場をもつことができた。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	0	体制整備を行い、迅速・適切に対応できている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12	0	月に一回会報を発行し、事業所内の掲示板にも貼り出しを行っている。 SNSでの情報配信も行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	0	入職時、職員に秘密保持の同意書にサインをもらっている。 利用者の写真掲載について同意書をもらうとともにそれぞれの意識について一覧表を作成して都度確認している。	子どものようすを撮影するときは社用スマートフォンで撮影するが、撮影用のデジカメの購入を検討する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	子どもに対しては、それぞれの児童に合わせて写真やイラストカード、ハンドサイン等を用いて対応を行っている。 保護者に対しては、言葉だけでなくアンケート用紙で要望を聞いたり、伝達事項を書面にも書き起こす等して対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	6		現時点では行えていない。 本人や家族の障害受容の状況にも配慮しつつ、地域との関わりをもつ機会を考えていきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	1	職員へはSNSを用いた共有ノート等を通じて周知を行っている。	保護者に対しては、共有システムの活用等を行っていつでも確認いただけるような形式での公開も検討していきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	避難訓練を年2度行い、備蓄もそろえている。	子どもだけでなく職員が連携をとる練習のための訓練も実施を検討する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	0	てんかん発作持ちの児童のかかりつけ医や対応方法等はすぐに確認できる場所にファイリングされている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	アレルギーの有無についてフェイスシートで確認して一覧表を作成している。 アレルギー食材を用いた調理活動は行わない。含まれる可能性がある場合は事前に保護者へ確認している。	

非 常 時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	職員間で話し合う機会が設けられている。 年に2回虐待防止研修を開催している。 環境整備について整備票をつくって定期的に点検を行い、危険な個所を見つけ次第対処するようにしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	お便りを活用して周知している。 虐待防止研修をした際にはSNSや通信で発信するようにしている。 以前に保護者からのアンケートで出た意見をもとに改善することができている。	繰り返しの周知を今後も続けていく。 改善したことについて、対応したことを保護者向けにもっと発信していくとより安心してもらえる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	記録があった際には周知を行い、各自が確認するようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	0	定期的に研修を行い、知識と意識を高めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	2	該当の子どもはいない。	情報共有はおこなっているが、職員による意識の差を埋めるためにもさらに詳細な認識共有のためのツールを考えていく。